

「対立の文化」から「共生の文化」へ

1998 年以來たびたび訪れている、中国人民抗日戦争紀念館で開催される「中国全民族抗战勃発 80 周年紀念&国際二戦博物館館長フォーラム」にご招待いただき、ありがとうございます。

世界は国家間のせめぎ合いと地域格差、情報・物流革命と地球温暖化による気候変動、核拡散等が複雑に絡まり、歴史的な大変動期に突入していると思われまふ。このため、既存の枠組みが流動化、朝鮮半島、日本列島、沖繩諸島、台湾諸島、北方四島は、産業革命以降の地政学的背景から生まれた諸問題に、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の度々の核・ミサイル実験が重なり、抑制された究極の対立状態に陥っています。今こそ、我々の智慧と勇気が試されています。1895 年に来日された孫文先生の念いを現代によみがえらせ、朝鮮半島と日本列島から「対立の究極の文明から共生の文化」を生み出す好機と捉えることもできます。

1937 年 7 月 7 日の盧溝橋事件から 80 年、大きな災難を与えた加害国・敗戦国日本の子孫として中国人民に心からの謝罪と周恩来総理の未来を見据えた戦後の対応に深く感謝申し上げます。

人間自然科学研究所は、1997 年から世界の戦争・平和記念館を訪問、学習・献花・寄付を行うなどの活動を通じ、紛争・戦争に至る背景と経緯と実態を研究、「戦前責任」「戦中責任」「戦後責任」の 3 つに分けて考察してきました。

今のままでは、日本、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、そして米国・露国・中国の 3 大核大国の指導者は勿論、国民一人ひとりが、人類史における究極の「戦前責任」を問われる立場になります。

周恩来総理の「前事を忘れず後事の師とす」、江沢民主席の「歴史を鑑とし未来を拓く」という言葉をよみがえらせ、長い時間軸で理想世界を実現するストーリーを描くべきときが来たことを認識しています。

4 万 8 千年前、アフリカを出た人類の祖先は、中国・朝鮮半島から九州、台湾から琉球列島、シベリアから北海道という 3 つのルートで日本列島に到達したと言われています。暖流に挟まれ南北に長い日本列島に到達した人々は、豊かな自然の恵みを享受する一方、地震津波・台風・噴火など自然大災害を受け、島国独特の文化が生まれ、その後諸外国の影響を受け現在に至っています。

人類は、火の利用、言葉の発明、分業により進歩。火は火薬、ダイナマイトを経て、究極の火・核に。言葉は文字、印刷術を経て、クラウドとスマートフォンに。また通信・人工知能の驚異的進化は止まるところを知りません。分業は、国際分業が機能しなければ、どの国

も成り立たない時代になっています。

産業革命はユーラシア大陸西端の島国・イギリスから始まりました。「平和の事業化」、人類進化のための新しい文化は、大陸東端の島国・日本の、縁結びの地と言われる「八雲立つ出雲」で生まれました。これが中国北京に伝わり、「和の文化」研究会が2016年1月に発足しました。12名の学識研究者と北京市朝陽区中小企業市場発展商会（会員数200社）で、定期的に会合が行われ、当社が編纂した「経営理念手帳」中国語版を人民東方出版伝媒から発行する準備が進められています。

日本は、1945年8月15日のポツダム宣言受諾、無条件降伏をラジオで国民に知らせた昭和天皇の放送日を終戦記念日と定めています。人間自然科学研究所はこの「終戦」という言葉を「戦争の終焉の先がけを務める」と再定義。25年の活動から生まれた構想、提言をこの度の式典を機に、北京から世界へ向けて発表させていただきます。

第一は、沖縄において、人間の才能が次々に開花し、人類の未来が拓けるきっかけを提供する施設として「国際平和センター」を創設、「世界恒久平和発祥の島」とする提案です。

1879年、明治政府の琉球処分により日本に併合され、500年続いた琉球王国が滅び、沖縄県になりました。これが、日本の植民地政策の始まりで、以後、台湾、朝鮮半島、満州、北方四島など、次々に領土を拡大してきました。

沖縄は「出会えば兄弟」という言葉があるように「平和の島」でしたが、太平洋戦争末期の沖縄戦では約20万人が犠牲となり、「被害の島」になりました。第2次世界大戦末期の日本本土爆撃、その後朝鮮半島、ベトナム、イラク等への米軍前線基地として「加害の島」という側面も持つようになりました。このような沖縄の人類史的・地政学的な意味を研究する中から次の構想が生まれました。

① 世界中から近代の戦争の全戦没者電子データを受けとめ、永遠に記録、閲覧できる「メモリアルセンター」。

② 情報通信技術（ICT・IOT）で世界の戦争・平和博物館のネットワーク網を構築。各施設の資料と写真映像をリアリティをもって総合的に学ぶことができ、世界の戦争・平和博物館への案内役と新たな智を生み出す「世界戦争平和映像センター」。

これを3年後に返還が決定している那覇空港隣接地に建設する構想です。

長い人類の営みから北極海の氷が溶け、北極海航路が拓ける可能性が生まれています。このたび習近平総書記は「一带一路」構想を提唱されました。沖縄とその近海、竹島（独島）・日本海に象徴される対立の地域から、「一带一路」構想がさらに進化し、アジア・ヨーロッパ・アメリカ大陸が結ばれる「世界縁結び 平和の特別聖地」となる可能性が見えています。

朝鮮半島と日本列島は、国土が広く、物理的に先制核攻撃をしない事が宣言できる、米国・露国・中国の3大核大国の勢力が拮抗する結節点に位置します。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と日本は、人権・歴史・領土問題などが複雑に絡まり抑制された対立が続いています。この対立こそ、核廃絶、世界恒久平和の入り口であると確信しています。

第二は、3大核大国と世界の国々の賛同を得て、朝鮮民主主義人民共和国の核放棄と世界すべての核保有国の核放棄を同時に実行、放棄された核兵器はすべて3大核大国に移管、朝鮮半島と日本列島の非核化を実現する。3大核大国は段階的に核削減し大国の人類史的な責任を果たす、という提言です。これを打ち出すことにより、三大核大国は大国としての国家の核心が生まれます。

第三の提案は、国民国連の樹立です。

2008年、北京で開催された、学苑出版社の『グローバル時代の人間学 中日韓英四カ国語による中国古典名言録』出版記念フォーラムで、「国民国連」の試案を発表しました。

現在の「国連」は「権力」である政府で構成され、第2次世界大戦の教訓から生まれた常任理事国5か国を中心に運営されています。一方、新しく構想した「国民国連」は、人類の特性と歴史的経緯を生かし、論理的討議を通じて、長い時間軸で道理を実現する道筋を生み出す、「国民代表」で構成され「権威」が生まれる集団です。その発祥の地を沖縄に置きます。

混迷する世界を輝かしい未来に導く「国民国連」の樹立が喫緊の課題です。

以上、3つの案を、国際二戦博物館館長会議で知っていただき、この構想提言が世界に広がり、議論が進み、国連の場で承認が得られる流れが生まれることを念じています。

一般財団法人 人間自然科学研究所 理事長
小松電機産業株式会社 代表取締役
小松昭夫

代読
磯江公博
(一般財団法人 人間自然科学研究所 監事
株式会社エナテクス常務取締役)

2017年7月21日



星印は、日韓で紛争中の日本海・東海の竹島・独島です。

日本列島は、水球（地球）最大の海・太平洋の各地の地震で起きる津波を、中国、ロシア、朝鮮半島の防波堤の役割ができる場所に位置します。また、4万8千年前、アフリカを出たホモサピエンスが、ユーラシア大陸のヒマラヤ山脈を南北に分かれて東に進み、アジアに到達、「中国・朝鮮半島」「台湾・琉球列島」「シベリア」の3つのルートを経て3万8千年前に、日本列島に到達したと言われています。

噴火・地震津波・台風・洪水など自然大災害を受容しつつ、暖流に囲まれ、南北に長く、水と温泉に恵まれ、針葉樹・落葉樹が生い茂る緑豊かな日本列島で自然の恵みを享受、また地球最大の多民族・ユーラシア大陸の政変で起きる「人類の大移動」が、朝鮮半島と日本海・東海によって食い止められ、日本列島独特の文化が生まれました。

漢字に代表される優れた文化を持つ漢民族は、大陸では同化と自立を繰り返し、世界に流出した人々は西欧文化を取り入れ拠点をつくり、華人ネットワークを形成、今新たな段階を迎えています。

またギリシャを源流とする西欧諸国は、15世紀の大航海時代を経て、全世界に植民地を拓げました。

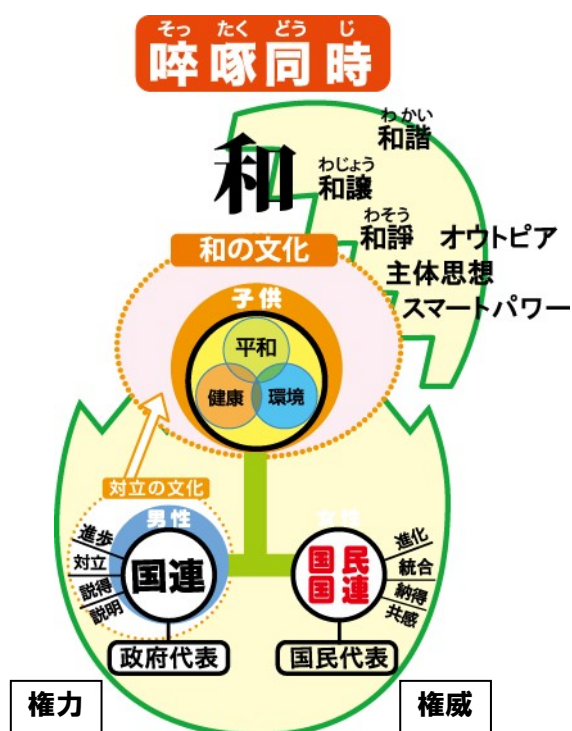
18世紀になると、エジプト文明を受け継ぐ、ユーラシア大陸西端の島国・イギリスは、蒸気機関の発明による産業・社会革命を起こし、その波を世界にひろげ、植民地争奪戦に勝利しました。そして第2次世界大戦で世界最大の軍事・金融力と消費文化を持った、アメリカ合衆国を誕生させ、現代に至っています。日本は道を誤り、権威と権力を統合、明治維新を経て、米英独の文明を吸収し、

「富国強兵殖産興業」政策を進め、日清戦争、日露戦争、第2次世界大戦に至り、周辺諸国に想像を絶する災難を与え、戦後の東西冷戦とその終結を経て、今日に至っています。

朝鮮半島と日本列島は、アメリカ合衆国・ロシア・中華人民共和国の3大核大国の勢力が拮抗する結節点に位置しています。大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と日本は、人権・歴史・領土問題などで抑制された対立を続けています。かつて「共存の海」であった日本海・東海を「対立の海」にし、今日に至っています。

朝鮮半島と日本は、3大核大国の積極的な賛同を得て、「対立の海」を「共生

の海」にし、「世界の対立から共生の文化」を生み出す先駆けを務める使命を果たすときが来たと認識しています。私たちの念いを、このロゴマークに表現し、2008年に制定しました。事業においても、同じマークを使用しています。



国民国連構想
2008年9月、北京で発表

(2008年制作)

国連＝1945年2月のヤルタ会談で合意され、「権力」である政府で構成されており、第2次世界大戦の教訓から生まれた常任理事国5か国を中心に運営されている。

国民国連＝人類の特性と歴史的経緯を生かし、自由が保障された論理的な討議を通じて、長い時間軸で道理を実現する道筋を生み出す、「国民代表」で構成され、「権威」が生まれる集団。